平成２３年度　帰国報告会資料

台中日本人学校における教育実践

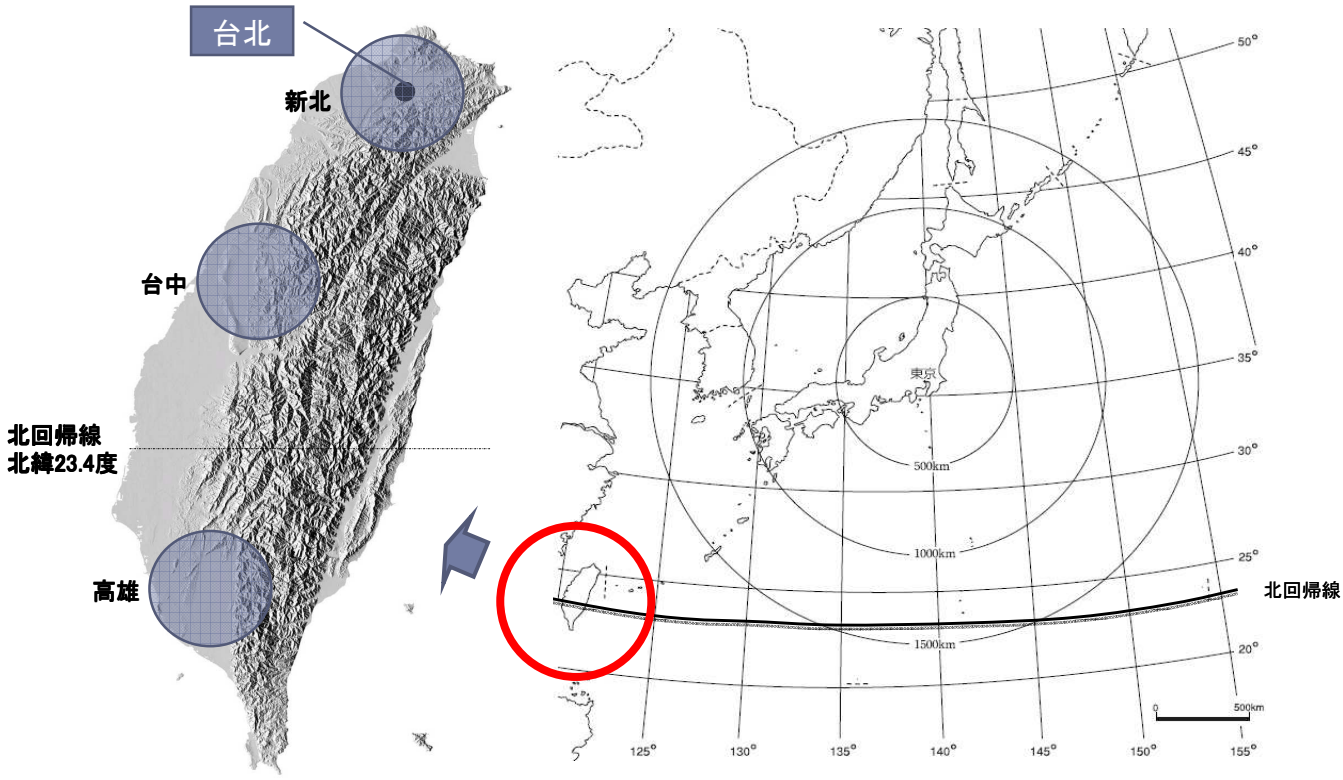
派遣期間　２００８年４月～２０１１年３月
登別市立幌別中学校　教諭　中島　英治

１　はじめに

教員となって１５年が過ぎ，教科指導や学級経営，部活動指導もある程度は軌道に乗ってきたある日，在外教育施設から帰国された先輩から，日本人学校における教育のすばらしさや海外生活の貴重な体験をお聞きする機会があった。その日から今日まで，日本人学校に対する熱い想いはまったく変わっていない。

赴任後は，初めて接する小学生，初めて指導する教科など，戸惑いながらも大変有意義な３年間を送ることができた。周囲の方たちの温かい励ましや支えがあったからこその３年間，言葉では表現できないほど感謝している。これからは，日本人学校を目指す先生方に，日本人学校のすばらしさを積極的に伝えていくことで，周囲の方たちへ恩返しの一端となればと思っている。

２　台湾のプロフィール



（１）　位置・面積

台湾は，日本の南西の方角にあり，東京から約２０００ｋｍの距離にある。台北（桃園）国際空港へは直行便で沖縄から約１時間３０分，大阪から約３時間，東京から約４時間，札幌から約５時間かかる。

面積は，約３６００km²（日本の約１０分の１）で日本の九州よりややせまいくらいの大きさである。

（２）　正式国名　「中華民国」

一般的には「台湾」の名で知られているが，正式な国号は「中華民国（Republic Of China）」である。孫文により１９１２年に成立したアジア最初の共和国で，現在でも建て前としては中国全土を支

配していることになっている。しかし，実際は台湾本土と一部の離島のみの支配にとどまっている。
国内では，西暦より中華民国開国の年（辛亥革命の翌年１９１２年１月１日）を元年とした「民國」という年号が広く使われている（２０１１年は民國１００年）。

（３） 人口　「約２３００万人」

人口は約２３００万人，主な都市は新北市（約３９０万人），高雄市（約２７０万人），台中市（約２６５万人），台北市（約２６０万人）である。２０１０年，新北市は台北県，高雄市は高雄県，台中市は台中県が巨大な直轄市となったために，台北市を人口で上回った。

（４） 首都　「台北」

中華民国が「全中国を代表する国家」として大陸反抗を掲げていた冷戦時代は，南京を首都として，台北を臨時首都としていた。しかし，冷戦後は南京を首都と表現することはほとんどなくなったものの，首都を台北と明言することはなく，「中央政府所在地」などと表現するにとどまっている。いずれにせよ，実質上，首都機能を有している都市は台北である。

（５） 時差　「マイナス１時間」　日本の午前９時は台湾の午前８時

（６） 気候　「亜熱帯性気候」

台中市の気候は亜熱帯性気候に属し，一年のうち３月から１１月が夏，１２月から２月が冬と言って良い。３月頃からだんだん暑くなり始め，４月には気温が２５℃以上にまで上昇する。５月～６月にかけては梅雨期となりジメジメした日々が続く。その後７月から８月にかけて一年で最も暑い時期を迎え，気温は日中３５℃前後にまで達し，夜は熱帯夜が続く。また，７月から９月にかけては台風シーズンでもある。台湾は台風の通り道に位置し，台風が来るたびに洪水，土砂崩れなどの災害に見舞われ，被害も多く出ている（写真１）。

写真１　台風の暴雨で倒れる街路樹

９月に入っても日中３０℃前後の日々が続くが，９月後半頃から１０月，１１月にかけて次第に気温が下がり始める。１２月から２月頃の気温は最低でも１０℃前後で，雨はほとんど降らず空気も乾燥している。

台中市の年間平均気温（最高・最低）・降水量・服装　※年によって若干異なる

	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月
最高気温(℃)	20	22	25	29	31	33	34	33	32	29	26	23
最低気温(℃)	9	13	14	19	22	24	25	24	23	20	15	14
降水量　(㎜)	35	64	104	129	246	341	74	342	155	23	19	23
服　装　(注)	C	B	B	A/B	A	A	A	A	A	A/B	B	B

注：服装・・Ａ－夏服・半袖シャツ，Ｂ－春秋服・長袖シャツ，Ｃ－冬服

地理的には，台中市が位置する中西部から南部にかけて豊かな平野が広がり，農業の機械化も著しく普及し，米，茶，サトウキビなどの農作物は年々生産高が増加している。年平均気温は約２２℃と暖かく，パイナップルやスイカなどは，一年中味わうことができる。そのほか，各地でマンゴー，ブドウ，ナシなどさまざまな果物が栽培されている。

（７） 政治　「民主共和制」

台湾では建国以来，国民党による一党独裁政治が続いてきたが，１９８８年に李登輝が総統に就任して以来，急速に民主化が進み，２０００年，民進党・陳水扁の総統就任により，台湾初の政権交代が実現した。２００８年の総統選挙では国民党の馬英九が勝利し，再び国民党が政権を取り戻し現在に至っている。

（８） 宗教　「道教・仏教・キリスト教」

道教とは，媽祖（まそ）という女神を航海・漁業の守護神として，中国沿海部を中心に信仰を集める宗教である。台湾には福建南部から移住した開拓民が多く，彼らは媽祖を祀って航海中の安全を祈り，無事に台湾島へ到着した事を感謝して，台湾島内に媽祖廟を建てた。このため台湾では媽祖が広く信奉され、もっとも台湾で親しまれている神と言えよう。

３ 台湾の歴史

（１） オランダ支配時代

１６世紀，ヨーロッパ人で初めて台湾を発見したのは，ポルトガル人。緑におおわれた台湾を見て「イラ・フォルモサ（美しい島）」と称賛したことから，今でも欧米では，台湾を「フォルモサ」と呼ぶことが多いという。

１６２４年,オランダが台湾を領有後,台湾北部にスペインが進出したが,オランダに敗れたため，１６６１年までオランダの支配が続いた。

（２） 鄭成功の時代

１６４４年，中国大陸の明が清に滅ぼされると，明王朝の家臣，鄭成功は台湾へ渡り，１６６１年にはオランダを追放して，台湾を「打倒・清」の拠点とした。鄭氏は，３代にわたって台湾を統治したが，１６８３年，清の統治下に入ることになった。鄭成功は，漢民族の英雄として，現在でも台湾各地に銅像が建てられている（写真２）。

写真２　民族の英雄「鄭成功」

（３） 漢民族移住の時代

清は台湾を積極的に統治しなかったが，福建省と広東省から漢民族が移住するようになった。１９世紀中頃から，欧米列強がアジアを侵略するようになると，鎖国を続けていた清も開国せざるを得なくなり，台湾の２港（安平・基隆）を開港し，台湾省を置いた。

（４） 日本統治時代

１８９５年，日清戦争で日本に敗れた清は，下関条約を結び，台湾と澎湖（ポンフー）諸島を日本に譲った。日本は台湾総督府（写真３）を置き，原住民の反乱，風土病の流行，アヘンの習慣を抑えていく一方，鉄道，道路，教育制度を充実させた。１９４５年，日本が戦争に敗れるまで，台湾は日本の領土だった（５０年間）。

写真３　台湾総督府（現・総統府）

（５） 国民党政権時代

戦後，台湾は中華民国に返還されたが…。１９４７年２月２８日，横暴と腐敗を繰り返していた中華民国政府に対する，台湾人の不満が暴動へと発展する。政府は暴動を武力で鎮圧し，その後は，多数派の本省人（台湾人）を，少数派の外省人（大陸人）が支配する仕組みができあがった。

１９４９年，共産党（毛沢東）との内戦に敗れた国民党（蒋介石）は，軍隊を連れて台湾に逃れ，台北を臨時首都として，中華人民共和国に対抗した。

戦後，国際連合の代表権は中華民国（台湾）が持っていたが，１９７１年からは，代表権を中華人民共和国が持つことになった（台湾の国連脱退）。日本は，１９７２年に台湾と国交を断絶。１９７８年，中華人民共和国と日中平和友好条約を結んだ。アメリカは，１９７９年に台湾と国交を断絶。２０１１年現在，台湾と国交を結んでいる国は，２３カ国となっている。

（６） 民主化へ

蒋介石の死後，総統となった息子の蒋経国は，約３８年間続いた戒厳令を解除し，民主化を進めていく。１９８８年，蒋経国が亡くなると，副総統だった李登輝が，本省人（台湾人）として初めて総統に就任した。１９９６年，彼は台湾初の直接選挙による総統選を実施し，総統に再選。２０００年まで総統を務めた彼は「ミスター・デモクラシー」と呼ばれ，今でも国内外で尊敬されている。さらに，２０００年の総統選で，国民党と対立する民進党の陳水扁を応援し，台湾初の政権交代を実現させた。２００８年からは，国民党の馬英九が総統となり，親中国政策を続けている。

４　台中日本人学校の概要

（１）沿革

１９７６年　「台中日本語補習学校」として，全校児童８名でスタート。
１９７７年　「台北日本人学校台中分校」となり，日本政府より認可された学校となる。
１９８０年　「台中日本人学校」となる。
１９９９年　台湾大地震で校舎損壊。
　　半月後に幼稚園を間借りして授業再開。
２０００年　プレハブ校舎移転。
２００１年　新校舎が完成する。
２０１０年　新グラウンドが完成する。

写真５　新しいグラウンド

写真４　台中校のシンボル「大王やし」

（２）教育目標

生きる力と国際性を身につけた，心身ともに健全な子どもの育成

（３）めざす児童・生徒像

「や」やる気をもって　「し」しんけんに　「まる」まるい心
で人と接する子どもの育成

写真６　台中校のキャラクター「やしまる」

（４）教育計画における特色

写真７　中国語の授業風景

〇中国語・日本語と英会話

全学年で中国語（写真７），小１～６年で日本語，小４以上で英会話の授業を行っている。

〇小5以上は教科担任制

小４までは，学級担任による教科指導を基本としながら，必要に応じて専科による教科指導を行っている（図工など）。教科担任制は，複数の教員の目で児童生徒を見ることができ，中学部への準備ができる。また，教員の専門性を発揮できるメリットがある。

〇現地理解を進めるための行事

全教科を通じて現地理解教育を行っているが，特に現地理解を深めるために「社会科見学（写真８）」，現地國小・國中との「交流学習」，「体験学習」などの行事を組んでいる。また，職員研修としても「現地校見学」「交歓会」「工場見学」を行っている。

写真8　小5社会科見学（日産工場）

〇児童会・生徒会

児童会は，企画委員会が小学部の行事・集会を運営し，「環境」「学習」「体育」の各委員会を組織している。中学部生徒会は，「環境」「学習広報」「体育」の各委員会を組織し，中学部や全校に関わる行事・集会を運営している。

〇部活動

部活動は小学部５年生以上の児童・中学部生徒の全員参加で，毎週火曜日・木曜日の放課後１時間実施している。日本人学校の児童生徒は，日本国内に比べて，帰宅後や休日の運動機会が少ない傾向にあるため，部活動は運動系のみを設置し，ソフトボール部・サッカー部・バレーボール部・バスケットボール部・卓球部が活動を行っている。

〇自主裁量の時間

基礎学力の向上を目的とし，週に１時間，少人数クラスで質問学習や自主学習を行い，学習方法を習得する授業を行っている。

写真９　教師による読み聞かせ

〇読書活動

週に一度，朝学習の時間を読書にあてている。また，１１月を読書月間として，全校生徒で目標ページ達成を目指す取り組みや教師による読み聞かせ（写真９）など，年間にわたって読書に親しむ習慣を身につける活動をしている。

〇縦割り班活動

台中校では，全校児童生徒を９つに分けた縦割り班活動を行っている。毎日，昼の時間に行う清掃活動を縦割り班で行うほか，各種行事などで行動を共にすることが多い。高学年は低学年の面倒を見ながら立派な上級生となるように意識するようになり，低学年は高学年の立派な姿を見て，学校生活における規律や勤労の大切さを学ぶようになる。

〇日本の伝統行事を扱った集会など

①こいのぼり集会（5月）…小学部のみ

縦割り班ごとに製作したこいのぼりを校内に貼るほか，大きなこいのぼりを掲揚塔に掲げる。

②七夕集会（7月）…小学部のみ

縦割り班ごとに笹の飾り付けを行い，願いを書いた短冊をつるして体育館に竹竿を掲げる。集会では，小学部企画委員が趣向を凝らしながら，七夕の物語を演じて雰囲気を盛り上げる。

③秋祭り（9月）…小学部・中学部

日本人会が主催する行事の中でも最大のもの。台中校のグラウンドにやぐらを建て，盆踊りや抽選会などで盛り上がる。周りには縁日が出店し，子どもたちもこの日のためにお小遣いを貯めて，輪投げや買い物を楽しむ。子どもたちや教員のほとんどが浴衣や甚平を着て参加する。ＰＴＡも積極的に参加し，各学年の保護者（全７店）と教職員（１店）も趣向を凝らした縁日を出店させる。地域住民だけでなく，台中市内からも臨時バスが出るほど，現地台湾の方たちも楽しみにしている一大イベントである。

④餅つき大会（12月）…小学部・中学部

ＰＴＡの主催行事。小１から中３までの全校児童生徒が，自分たちでついた餅を自分たちで食べる。２年に一度，地域の國中（日本でいう中学校）生徒を招いて，餅つきの体験も行っている。

⑤書き初め大会（1月）…小学部・中学部

小３以上の児童生徒が体育館に集まり，書写の時間や冬休み中に練習してきた成果を発揮する（毛筆）。小１・２は，教室で硬筆に取り組む。書き初め後は全校児童生徒の作品が廊下に掲示され，最優秀賞から金賞・銀賞・銅賞・審査員特別賞・努力賞など，児童生徒の頑張りを評価するための審査が行われる。

⑥節分集会（2月）…小学部のみ

心の中に住む退治したい鬼をシートに記入し，約１週間，廊下に掲示する。集会では，各学年の代表が心の鬼を発表した後，小学部全員で教師が扮する鬼を退治する。

写真10　こいのぼり集会

写真11　七夕集会

写真13　餅つき大会

写真12　秋祭り

写真14　書き初め大会

写真15　節分集会

（５）授業日数・時数（平成２２年度）

＜授業日数＞

祝日による休業は，台湾の祝日が３日（端午節・国慶節・中秋節）と日本の祝日が１日（こどもの日）の計４日と少ない。しかし，夏季休業が約３０日間，冬季休業が約１０日間，日本と比較して長く設定されている年度末・年度始休業のほか，年によってかわるが，中華文化圏ならではの１月下旬から２月下旬の旧正月休業（１週間～１０日間）があるため，日本国内とほぼ同様の授業日数となっている。さらに，台湾は勢力の強い台風の通り道となることが多く，台風上陸による臨時休業があるのも考慮しなければならない。テレビニュースの中で，登校時刻までに「不上課」あるいは「停課」（いずれも「授業がない」の意）の指示が市政府から出されると，すべての学校がお休みになる。

	1学期	2学期	3学期	年間合計
小学部1年	67	88	50	205
小学部2年	68	88	50	206
小学部3年	68	88	50	206
小学部4年	68	88	50	206
小学部5年	68	88	50	206
小学部6年	68	88	46	202
中学部1年	67	88	50	205
中学部2年	68	88	50	206
中学部3年	68	88	40	196

＜授業時数（中学部）＞

年間	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	体育	家庭	道徳	中国語	英会話	総合	学活	自主	合計
小学部1年	315		140		105	70	70	105		35	35			35		910
小学部2年	315		175		70	70	70	105		35	35			35		910
小学部3年	245	70	175	105	0	70	70	105		35	35		35	35		980
小学部4年	263	88	175	105	0	53	53	105		35	35		35	35		980
小学部5年	210	105	175	105	0	53	53	105	70	35	35	35	35	35	35	1085
小学部6年	210	123	175	105	0	53	53	105	53	35	35	35	35	35	35	1085
週																
小学部1年	9		4		3	2	2	3		1	1			1		26
小学部2年	9		5		2	2	2	3		1	1			1		26
小学部3年	7	2	5	3		2	2	3		1	1		1	1		28
小学部4年	7.5	2.5	5	3		1.5	1.5	3		1	1		1	1		28
小学部5年	6	3	5	3		1.5	1.5	3	2	1	1	1	1	1	1	31
小学部6年	6	3.5	5	3		1.5	1.5	3	1.5	1	1	1	1	1	1	31

＜授業時数（中学部）＞

年間	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	体育	技術家庭	英語	道徳	中国語	総合	学活	自主	合計
中学部1年	140	105	140	105	53	53	105	70	140	35	35	35	35	35	1085
中学部2年	140	123	123	140	35	35	105	70	140	35	35	35	35	35	1085
中学部3年	140	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	35	35	35	1085
週															
中学部1年	4	3	4	3	1.5	1.5	3	2	4	1	1	1	1	1	31
中学部2年	4	3.5	3.5	4	1	1	3	2	4	1	1	1	1	1	31
中学部3年	4	4	4	4	1	1	3	1	4	1	1	1	1	1	31

小学部は平成２３年度，中学部は平成２４年度から完全実施される新学習指導要領を見据えて，数年前から上のような時数を確保している（平成２３年度からは小４が１時間増）。

台中校の年間時数と週時数は，日本国内のそれと比較するとかなり多い。前述のような台風による臨時休校を考慮しているだけでなく，十分な教育レベルを確保したいという教師側の意欲はもちろん，教育に対する保護者の関心の高さにも支えられ，このような授業時数が確保されてきた。とくに，小５・６が中学部と同じ時数となっているのは，小５以上の児童生徒が同じバスに乗って下校しなければならないという事情もある。

5　台中日本人学校の課題

（1）「国際結婚家庭児童生徒への「対応」

２０１０年１２月現在，全校児童生徒に対する国際結婚家庭児童生徒の割合は４８％となっている。学校規則には「就学しようとする子どもは，日本国籍を有していること」とあるが，様々な理由や特例措置として，日本国籍を持たない児童生徒も入学している。

日本国籍を持たない児童生徒は，日本の学校に進学する際に適用となる「海外帰国子女枠」が使用できないばかりでなく，台湾現地の公立校を卒業せずに日本人学校の卒業となるため，台湾の高校に進学する場合にも受験資格が得られないことになる。

さらに，日本国籍を持っていても，家庭では日本語を母語として使用していない児童生徒も多いため，教科の学習以前に日本語力の強化が必要な児童生徒が多い。

小２以上児童を対象に行っている標準学力テストの結果を分析すると，国際結婚家庭児童の国語力が低いことが明らかとなっていることからも（２０１０年４月のデータ），どの教科にも必要な国語力の強化が，とくに小学部においては重要な課題となっている。

（2）「児童生徒数増加への対応」

１９７６年に８名でスタートした児童生徒数は，右のように年々増加の一途をたどっている。台中市周辺には，台湾でも有数の工業団地が点在しており，家電，携帯電話，自動車関連企業の進出が児童生徒数増加に大きく関係している。１学級の人数が３５人に迫る学年（台中校は学年単学級）もあり，今後は施設・設備面で対応が難しくなるばかりでなく，スタッフの確保にも頭を悩ませる可能性がある。

１９８０年	８２名
１９９０年	１３４名
２００９年	１５６名
２０１０年	１６５名
２０１１年	１８６名
２０１２年	２０９名

（来年度見込み）